



春日新50年プランによるまちづくり

Vol. 15

魅力ある春日の未来図を実現するため、(A)市民活動拠点の整備、(B)都市機能の向上推進、(C)歴史自然景観の整備の3つの視点(プラン)による都市づくりを推進していきます。



▲春日新50年プラン

プラン
C

天神山水城跡の整備

水城跡とは

天智3年(664年)に、唐・新羅の侵攻に備えて築かれた古代の防衛施設で、国の特別史跡に指定されています。福岡平野が最も狭くなった場所に、全長1.2キロメートルの巨大な土塁が築かれ、その前面には、幅60mの濠が造られました。『日本書紀』には「筑紫に大堤を築き水を貯えしむ。名づけて水城という」と記されています。

そして、水城西側のいくつかの谷間にも、小規模な水城(小水城)が築かれました。市内には、天神山水城跡と大土居水城跡が残っています。

天神山水城跡

天神山水城跡の自然丘陵東側には、東西方向に延びる土塁があり、長さ約140メートル、幅約20メートル、高さ約4メートルです。他の水城跡と同様に土塁は質の異なる土を何層にも積み固めて築かれています。

天神山水城跡の自然丘陵南側は、本来の地形が周囲より高く、土塁状の地形をしており、この地形を生かした防衛線が考えられます。

このような史跡の重要性について知ってもらうため、解説板を設置しています。

将来的には、丘陵上からの眺めも含め散策を楽しんでもらえるよう、整備を進めていきます。



▲天神山水城跡全体の整備イメージ

問い合わせ先 文化財課整備活用担当 ☎(501)1144 ☎(573)1077 ☎1004236